

iPassLeader

Pass Your Next Certification Exam Fast!

Everything you need to prepare, learn & pass your certification exam easily.

Login / Register

Shopping Cart (3)

Search...



Online Test Engine

Instant Online Access, Test History and Performance Review, Supports Windows / Mac / Android / iOS, etc. →

Desktop Test Engine

Installable Software Application, Simulates Real Exam Environment, Supports MS Operating System, Practice Offline Anytime. →

PDF Format

Printable PDF Format, Prepared by IT Experts, Study Anywhere, Anytime, Free PDF Demo Available. →

Download a free pdf sample of any of our study materials

- ▶ 24/7 customer support, Secure shopping site
- ▶ Free One year updates to match real exam scenarios
- ▶ If you failed your exam after buying our products we will refund the full amount back to you.

Select a vendor... ▼

Select an test... ▼

Your email address

Free Download Demo



48923+
Happy Clients



48923+
Shares



97846+
Downloads



9999+
Years in Business

<http://www.ipassleader.com/>

Everything you need to prepare, learn & pass your certification exam easily.

Exam : **1z0-062J**

Title : Oracle Database 12c:
Installation and
Administration

Vendor : Oracle

Version : DEMO

QUESTION NO: 1

データベースは、オンライントランザクション処理 (OLTP) ワークロードをサポートしています。このワークロードでは、アプリケーションの1つがセッション用のテンポラリテーブルを作成し、トランザクションを実行します。

これにより、多くのUNDO表領域が消費され、多くのREDOが生成されます。

この問題を解決するには、どの2つのアクションを実行しますか？

(2つを選択してください)

- A. 一時表領域のサイズを増やします。
- B. 自動メモリー管理 (AMM) を使用可能にする。
- C. 取り消し保持を有効にします。
- D. データベースの一時的な取り消しを有効にします。
- E. REDOログバッファのサイズを増やします。

Answer: A D

QUESTION NO: 2

どのステートメントが、統合される監査について真実であるか？

- A. 統合された監査歴は、デフォルトでSYSAUX tablespaceのAUDSYSスキーマのリードオンリーテーブルにある
- B. CREATE、ALTERとDROP声明だけは、すべてのユーザー (SYSを含む) のために監査されます。
- C. AUDIT_TRAILパラメータがNONEに設定される場合だけ、統一会計検査は許可されます
- D. 統一監査コースは、統一監査ポリシーとAUDIT settings. だけから監査記録を含みます

Answer: A

Explanation

References: https://docs.oracle.com/database/121/DBSEG/audit_admin.htm#DBSEG370

QUESTION NO: 3

あなたは、OLTP仕事量をサポートするデータベースを管理している。

デフォルトのUNDO表スペースは、RETENTION

NOGUARANTEE文節を持つ固定サイズの表スペースであり、元に戻す保持時間は12分に設定されています。

ユーザーSCOTTは、ピークの活動の間、大きなテーブルを問い合わせます。

問い合わせは15分以上の間運びます、そして、SCOTTは以下のエラーを受けます:

ORA-01555: スナップショットが古すぎる

この可能性がある理由は、どちらですか？

- A. Oracleサーバーは、そのクエリが開始されました後にupdates.committedを含むブロックの読み取り一貫性のあるイメージを生成できません。
- B. 問い合わせは、UNDO tablespaceでデータブロックを置くことができません。
- C. フラッシュバック・データ・アーカイブは、照会が発行された表に対しては使用可能ではありません。
- D. 十分なスペースが、速い回復域にありません。

E.

Oracleサーバーは、コミットされていない更新を含むブロックに対して読取り一貫性のあるイメージを生成できません。

Answer: A

QUESTION NO: 4

問題を診断して修正するために、サーバーで生成されたしきい値のアラートを使用できる3つの状況はどれですか？

(3つ選択してください。)

- A. ローカル管理表領域の空き領域が指定の割合を下回る場合
- B. 1秒あたりのログオン数が特定の値を超える場合
- C. 再開可能なステートメントが中断されたとき
- D. ロックされたユーザーアカウントの総数が特定の値を超えたとき
- E. ログオンの総数が特定の値を超える場合
- F. ディクショナリ管理表領域の空き領域が指定の割合を下回る場合

Answer: A B C

Explanation

References: https://docs.oracle.com/cd/B28359_01/server.111/b28310/monitoring001.htm

https://docs.oracle.com/cd/B28359_01/server.111/b28310/schema001.htm

QUESTION NO: 5

パラメータを調べます。

データベース・インスタンスはPFILEで起動します。

<u>NAME</u>	<u>TYPE</u>	<u>VALUE</u>
Memory_max_target	big integer	0
Memory_target	big integer	0
Sga_max_size	big integer	2G
Sga_target	big integer	2G

バッファークャッシュのサイズを増やしたいとします。

空きメモリを使用して、バッファークャッシュのサイズを増やすことができます。

次のコマンドを実行します。

```
SQL> ALTER SYSTEM SET DB_CACHE_SIZE=1024M;
```

結果はどれですか？

A.

変更は現在のインスタンスに適用されますが、インスタンスの再起動後も維持されません。

B. この値はPFILE内でのみ変更され、次のインスタンスの起動時に有効になります。

C. 現在のインスタンスとPFILEの値が変更されます。

D. SCOPE句がないために失敗します。

Answer: A

QUESTION NO: 6

DBファイルの大量の待機数は散乱し読み取り、DBファイルのシーケンシャルは最近の自動

データベース診断モニター (ADDM) レポートにイベントを読み取ることを確認します。異なる調査した後、クエリがあまりにも多くの全表スキャンを実行しているとインデックスはフィルタ列がインデックスされていても使用されていないことがわかります。

3つの可能な理由を識別してください。

- A. 欠落または失効したヒストグラム統計
- B. 過小共有プール
- C. インデックスの高クラスタ化係数
- D. DB_FILE_MULTIBLOCK_READ_COUNTパラメータの高い値
- E. 特大バッファキャッシュ

Answer: A C D

Explanation

D: DB_FILE_MULTIBLOCK_READ_COUNT is one of the parameters you can use to minimize I/O during table scans. It specifies the maximum number of blocks read in one I/O operation during a sequential scan.

The total number of I/Os needed to perform a full table scan depends on such factors as the size of the table, the multiblock read count, and whether parallel execution is being utilized for the operation.

QUESTION NO: 7

スタンドアロン・サーバー用にOracle Grid Infrastructureをインストールします。どの2つのコンポーネントがOracle Restart構成に自動的に含まれていますか？ (2つを選択してください)

- A. A pre-existing Oracle Net Listener
- B. Oracle Notification services
- C. A pre-existing database
- D. A pre-existing Oracle management agent
- E. Oracle CSSD service

Answer: B E

Explanation

References: <https://docs.oracle.com/database/121/LADBI/oraclerestart.htm#LADBI999>

QUESTION NO: 8

データベース構成アシスタント (DBCA) を使用して既存のデータベースに対して構成できる2つのオプションはどれですか？ (2つを選択してください)

- A. Configure Label Security
- B. Database Vault in ORACLE_HOME
- C. Oracle Suggested Backup Strategy
- D. Database Resident Connection Pooling
- E. Nondefault blocksize tablespaces

Answer: A B

QUESTION NO: 9

SQL文のパフォーマンスへの影響を分析するために、SQLパフォーマンス・アナライザを使用することをお勧めする3つのシナリオを識別してください。

- A. Oracleデータベースのバージョンの変更
- B. ネットワークインフラストラクチャの変更
- C. データベースサーバのハードウェア構成の変更
- D. 非ASMからASMストレージへのデータベース・ストレージの移行
- E. データベースおよびオペレーティング・システムのアップグレード

Answer: A C E

Explanation

Oracle 11g/12c makes further use of SQL tuning sets with the SQL Performance Analyzer, which compares the performance of the statements in a tuning set before and after a database change. The database change can be as major or minor as you like, such as:

- * (E) Database, operating system, or hardware upgrades.
- * (A, C) Database, operating system, or hardware configuration changes.
- * Database initialization parameter changes.
- * Schema changes, such as adding indexes or materialized views.
- * Refreshing optimizer statistics.
- * Creating or changing SQL profiles.

QUESTION NO: 10

より迅速な増分バックアップを可能にするために、データベースのブロック変更トラッキングを有効にしました。

ブロックチェンジトラッキングファイルについて、どの2つのステートメントが当てはまりますか？（2つを選択してください）

- A. データベースに対して複数の変更追跡ファイルを作成できます。
- B. 変更追跡ファイルは、最初のレベル0のバックアップ後に作成する必要があります。
- C. RMANは、変更トラッキング・ファイルのバックアップとリカバリをサポートしていません。
- D. データベースは、変更追跡ファイルを消去し、データベース全体の復元および復元操作の後で変更を再度追跡し始めます

Answer: C D

QUESTION NO: 11

Oracle 11gリリース1データベース上のDROP

USERカスケードを実行し、OCPスキーマにOCA.EXAM_RESULTSテーブルをコピーするのを忘れたことにすぐ気づきました。

DROPユーザーの前に有効RECYCLE_BINが実行され、OCPのユーザーがFLASHBACK ANY TABLEシステム権限を付与されています。

OCPスキーマにOCA.EXAM_RESULTSテーブルの内容を回復するための最も簡単な方法は何かですか。

- A. FLASHBACK TABLE OCA.EXAM_RESULTS TO BEFORE DROP RENAME TO OCP.EXAM_RESULTSを実行します。SYSTEMとして接続されています。
- B. 伝統的なTablespace Point In Time Recoveryを使用してテーブルを回復します。
- C. Automated Tablespace Point In Time Recoveryを使用してテーブルを回復します。

- D. Database Point In Time Recoveryを使用してテーブルを回復します。
E. FLASHBACK TABLE OCA.EXAM_RESULTS TO BEFORE DROP RENAME TO EXAM_RESULTSを実行します。OCPユーザーとして接続されています。

Answer: C

Explanation

RMAN tablespace point-in-time recovery (TSPITR).

Recovery Manager (RMAN) TSPITR enables quick recovery of one or more tablespaces in a database to an earlier time without affecting the rest of the tablespaces and objects in the database.

Fully Automated (the default)

In this mode, RMAN manages the entire TSPITR process including the auxiliary instance.

You specify the tablespaces of the recovery set, an auxiliary destination, the target time, and you allow RMAN to manage all other aspects of TSPITR.

The default mode is recommended unless you specifically need more control over the location of recovery set files after TSPITR, auxiliary set files during TSPITR, channel settings and parameters or some other aspect of your auxiliary instance.

QUESTION NO: 12

あなたのデータベース例は、サーバー・パラメータ・ファイル (SPFILE) を用いて始まります。次のコマンドを実行します。LOG_BUFFER初期化パラメータの値を変更します：

```
ALTER SYSTEM SET LOG_BUFFER=32 M;
```

このコマンドの結果は何ですか？

- A. パラメータ値は変更され、SGAでスペースが使用可能になるとすぐに有効になります。
- B. このパラメータの値を動的に変更できないため、エラーが返されます。
- C. パラメータ値は変わります、そして、それは次の例スタートアップで有効になります。
- D. SCOPEがMEMORYへのセットでなければならぬので、それはエラーを返します。

Answer: B

QUESTION NO: 13

データベース例は、SPFILEを用いて始まります。

データベースはARCHIVELOGモードで設定されます、そして、コントロールファイル自動バックアップは構成されます

毎日の完全なデータベース・バックアップは、RMANを用いて実行されます。

あなたは、メディア故障のためにすべての制御ファイルを失いました。

ランダム順におけるエラーから立ち直るために、ステップを与えられます：

1. それですでに下にないならば、例をシャットダウンしてください。
2. 自動バックアップから新しい場所まで制御ファイルを元に戻してください。
3. NOMOUNT州にデータベース例を始めます。
4. 制御ファイルの故障とっていいほど、データベースを回復してください。
5. RESETLOGSオプションでデータベースを開けます。
6. データベースを開始します。
7. ALTER SYSTEM命令を用いて制御ファイルの新しい位置で、SPFILEを更新してください
要求されたステップの正しいシーケンスを確認してください。

A. 1, 3, 2, 6, 7, 4, 5

B. 1, 3, 7, 2, 6, 4, 5

- C. 1, 3, 2, 4, 5
- D. 1, 2, 6, 4, 5
- E. 1, 6, 2, 4, 5

Answer: A

QUESTION NO: 14

データベース・インスタンスのパラメータを確認してください:

NAME	TYPE	VALUE
optimizer_adaptive_reporting_only	boolean	FALSE
optimizer_capture_sql_plan_baselines	boolean	FALSE
optimizer_dynamic_sampling	integer	2
optimizer_features_enable	string	12.1.0.1

どの3つのステートメントはカーディナリティのフィードバックを使用して、自動最適化のプロセスについて真ですか。

A.

オプティマイザの推定と実行統計に大きな差がある場合、オプティマイザは自動的にSQL文の次の実行中に計画を変更します。

B.

オプティマイザは基数のフィードバックを一度使用するだけにクエリを再最適化することができます。

C.

オプティマイザはクエリの最初の実行後にカーディナリティフィードバックの監視を可能にします。

D.

動的サンプリングと複数列の統計情報が有効になっている場合、オプティマイザは基数のフィードバックを監視しません。

E.

オプティマイザが再最適化の候補としてクエリを特定した後、コレクターによって収集された統計はオプティマイザに提出されています。

Answer: A C D

Explanation

C: During the first execution of a SQL statement, an execution plan is generated as usual.

D: if multi-column statistics are not present for the relevant combination of columns, the optimizer can fall back on cardinality feedback.

(not B)* Cardinality feedback. This feature, enabled by default in 11.2, is intended to improve plans for repeated executions.

optimizer_dynamic_sampling

optimizer_features_enable

* dynamic sampling or multi-column statistics allow the optimizer to more accurately estimate selectivity of conjunctive predicates.

Note:

* OPTIMIZER_DYNAMIC_SAMPLING controls the level of dynamic sampling performed by

the optimizer.

Range of values. 0 to 10

* Cardinality feedback was introduced in Oracle Database 11gR2. The purpose of this feature is to automatically improve plans for queries that are executed repeatedly, for which the optimizer does not estimate cardinalities in the plan properly. The optimizer may misestimate cardinalities for a variety of reasons, such as missing or inaccurate statistics, or complex predicates. Whatever the reason for the misestimate, cardinality feedback may be able to help.

QUESTION NO: 15

これらの2つの文を確認してください:

```
SQL> CREATE BIGFILE TABLESPACE MRKT
  2 DATAFILE '/u01/app/oracle/oradata/orcl/mrkt.dbf' size 10M LOGGING
  3 EXTENT MANAGEMENT LOCAL SEGMENT SPACE MANAGEMENT AUTO;
```

Tablespace created.

```
SQL> ALTER DATABASE DEFAULT TABLESPACE MRKT;
```

Database altered.

どの3つはMRKT表領域について真ですか。

A.

ファイルサイズが大きいファイルのファイルに必要な最小値よりも小さいので、MRKT表領域は小さなファイル表領域として作成されます。

B. それは内容を持たない場合、MRKT表領域がドロップされる可能性があります。

C.

古いデフォルトの表領域を使用していたユーザーは、デフォルトの表領域がMRKT表領域に変更する必要があります。

D. これ以上のデータファイルを表領域に追加することはできません。

E.

表領域の相対ファイル番号はMRKT表領域に格納されているテーブルの行のROWIDがに格納されていません。

Answer: C D E

QUESTION NO: 16

デフォルトのデータベースバッファキャッシュについて正しいものはどれですか？

(3つ選択してください。)

A. ブロックイメージを含むバッファは、最長時間未使用 (LRU) アルゴリズムのみに基づいて再利用するために選択できます。

B. SGAの固定領域にあります。

C. そのバッファには、データファイルに対応するイメージがあるブロックのデータブロックイメージを含めることができます。

D. ブロック画像を含むバッファは、タッチカウントアルゴリズムのみに基づいて再利用のために選択できます。

E. ブロックサイズがバッファサイズに等しいデータベースブロックのブロックイメージのみを含めることができます。

F. キープおよびリサイクルキャッシュメモリは、デフォルトのバッファキャッシュに割り当てられたメモリからサブ割り当てされます。

G. そのバッファには、データファイルに対応するイメージがないブロックのデータブロックイメージを含めることができます。

Answer: B F G

QUESTION NO: 17

データベースを管理し、次の制限を適用するための要件を受け取ります:

1. 接続はユーザーによって4回ログインに失敗した後、終了しなければなりません。

2. ユーザーは4つ以上の同時セッションを作成できないようにする必要があります。

3. ユーザーセッションが非アクティブの15分後に終了しなければなりません。

4. ユーザーは15日ごとにパスワードの変更を要求しなければなりません。

どのようにこれらの要件を達成しなければなりませんか。

A. ユーザーへのセキュア・アプリケーション・ロールを付与することによります。

B.

ユーザーにプロファイルを作成し、割り当て、FALSEにREMOTE_OS_AUTHENTパラメータを設定することによります。

C.

ユーザーにプロファイルを作成し、割り当て、4にSEC_MAX_FAILED_LOGIN_ATTEMPTSパラメータを設定することによります。

D.

ファイングレイン監査 (FGA) を実装し、NONEにREMOTE_LOGIN_PASSWORD_FILEパラメータを設定することによります。

E.

データベース・リソース・マネージャ・プランを実施し、4にSEC_MAX_FAILED_LOGIN_ATTEMPTSパラメータを設定することによります。

Answer: A

Explanation

You can design your applications to automatically grant a role to the user who is trying to log in, provided the user meets criteria that you specify. To do so, you create a secure application role, which is a role that is associated with a PL/SQL procedure (or PL/SQL package that contains multiple procedures). The procedure validates the user: if the user fails the validation, then the user cannot log in. If the user passes the validation, then the procedure grants the user a role so that he or she can use the application. The user has this role only as long as he or she is logged in to the application. When the user logs out, the role is revoked.

Incorrect:

Not B: REMOTE_OS_AUTHENT specifies whether remote clients will be authenticated with the value of the OS_AUTHENT_PREFIX parameter.

Not C, not E: SEC_MAX_FAILED_LOGIN_ATTEMPTS specifies the number of authentication attempts that can be made by a client on a connection to the server process. After the specified number of failure attempts, the connection will be automatically dropped by the server process.

Not D: REMOTE_LOGIN_PASSWORDFILE specifies whether Oracle checks for a password file.

Values:

shared

One or more databases can use the password file. The password file can contain SYS as well as non-SYS users.

exclusive

The password file can be used by only one database. The password file can contain SYS as well as non-SYS users.

none

Oracle ignores any password file. Therefore, privileged users must be authenticated by the operating system.

Note:

The REMOTE_OS_AUTHENT parameter is deprecated. It is retained for backward compatibility only.

QUESTION NO: 18

ファイルシステムから同じプラットフォーム上のAutomata Storage Management (ASM) にデータベースを移行する予定です。

このタスクを達成するためにどの2つの方法またはコマンドを使用しますか？

(2つを選択してください)

- A. RMAN CONVERT command
- B. Data Pump Export and import
- C. Conventional Export and Import
- D. The BACKUP AS COPY DATABASE . . . command of RMAN
- E. DBMS_FILE_TRANSFER with transportable tablespace

Answer: A D

Explanation

A:

1. Get the list of all datafiles.

Note: RMAN Backup of ASM Storage

There is often a need to move the files from the file system to the ASM storage and vice versa. This may come in handy when one of the file systems is corrupted by some means and then the file may need to be moved to the other file system.

D: Migrating a Database into ASM

* To take advantage of Automatic Storage Management with an existing database you must migrate that database into ASM. This migration is performed using Recovery Manager (RMAN) even if you are not using RMAN for your primary backup and recovery strategy.

* Example:

Back up your database files as copies to the ASM disk group.

```
BACKUP AS COPY INCREMENTAL LEVEL 0 DATABASE
```

```
FORMAT '+DISK' TAG 'ORA_ASM_MIGRATION';
```